

令和3年12月21日

## 12月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木県では原木の生産、入荷は順調。3共販所の中で、特に矢板共販所への入荷が好調である。前月同様に製材工場の引取は良くなり、土場の回転も良くなった。11月の市も完売である。スギ柱材はここに来て弱気配、中目材は横ばい。ヒノキ材は全般的に横ばいで推移。スギ、ヒノキ小径木は共に値を上げている。

群馬では原木入荷が回復傾向にあり、集荷も少しずつ緩和してきたが、原木価格は上昇傾向にある。製材工場では年末までフル操業である。全体的に引き合いは減少傾向にあり、特に柱、間柱の問い合わせが少ない。地場の材木店や工務店の仕事は少ないが、プレカット工場からの引き合いは順調。製品在庫は少ないが、多少の余裕は出始めた。製品価格は高値安定であるが、一部で価格調整も見られ始め、一服感がある。

### 2. 米材

産地では伐採・出材ともに順調だが、8～9月の伐採制限の出材減を補えておらず、在庫は低水準。またカナダBC州南部ではここ10日間は集中豪雨の影響で一部地域で伐採が停止している。米国の港頭在庫は低水準ながら輸出需要に見合う供給は行われている。カナダの港頭在庫は出材が徐々に増えているものの依然低水準。米マツIS級並の12月対日輸出価格(推定)は前月比\$20アップの\$1,110になった模様。上昇要因は、産地製材工場の冬場の原木在庫の積み上げによる国内原木価格の値上がりに伴うもの。カナダBC州南部の集中豪雨で鉄道、道路が寸断され、BC州内陸部の製材工場からの出荷が滞っており、SPFの先物/現物価格ともに急上昇。対日向け米マツ小割製材の出荷に影響が出る模様。また米国向け関税の大幅な上昇もあり、各工場は減産に進むと予想される。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(12/6)は\$673/Mで11月頭に比べ14.4%の上昇。

10月原木入荷は161千 $m^3$ でやや低調、1～10月累計で1,955千 $m^3$ (前年同期比26.4%増)、カナダからの入荷は前年同期比231%増。出荷は191千 $m^3$ で出超、1～10月累計は1,965千 $m^3$ (同27.6%増)。在庫は減少し134千 $m^3$ 、在庫率は0.63ヵ月と1ヵ月を切った状態が続いている。国内米材工場では角類の動き好調だが、羽柄類が低調な模様。東京木材埠頭の11月製品入荷は12千

m<sup>3</sup>(前月比 34.9%減)、出荷は 19 千 m<sup>3</sup>(同 11.1%減)、在庫は 35 千 m<sup>3</sup>(同 15.6%減)。11 月はバルク船の入港遅れがあり、一時的な入荷減となった。荷動きは最高値材の入港により一服が出ている。

### 3. 南洋材

サラワク州では 11 月は概して降雨が多かったが、後半は晴れ間も見え、その期間に原木の出材ができた。サラワクからの輸出はインド向け 2 船(約 6 万 m<sup>3</sup>)、台湾向け 1 船だけである。PNG では主力の中国向けの運賃が落ち着き、これから配船が増えてくる見込み。主製品のフリー板はインドネシアのメルクシ松、中国のロシアからのアカマツの市況は低迷しているが、今後潤沢に出る見込みはない。輸入業者は強気で値下げ販売はなく、落ち着いている。12 月予想の原木入荷は 7 千 m<sup>3</sup>、出荷は 3 千 m<sup>3</sup>、在庫 8 千 m<sup>3</sup>。製材品入荷は 32 千 m<sup>3</sup>。

### 4. 北洋材

産地の主力工場は冬伐り原木への入れ替えを待つ状態。現状ではアカマツ良材原木はまだ少ない。日本側からの引き合い減、中国市場の不振で産地側は弱気でピーク時から \$50/m<sup>3</sup> 程度の値下がり。産地シッパーはアカマツ原板の本格交渉を開始したいが、日本側に買い気は無く、暫く綱引き状態が続くだろう。現地挽き野縁製品は日本側の市況停滞感、新型コロナの世界的な混乱で売り腰は総じて弱く、価格調整に応じるシッパーも見られる。日本側の在庫自体は多いが、良材の 30×40 は少なく販売も順調。国内製材工場では DIY、一般向けとも一服感が出ているが、プレカット工場向けは好調。10 月の製品入荷(東京+川崎)は 17 千 m<sup>3</sup> で本来の水準に回復、出荷は 14 千 m<sup>3</sup> で 7 月以降低調が続いている。在庫は増えて 28 千 m<sup>3</sup>。

### 5. 合板

合板用原木の国産材不足は深刻で価格は全樹種で高騰が続いている。ロシア材は来年以降、原木輸出が可能か今のところ不明である。ロシア単板の入荷は船不足の影響で遅れが続いている。カナダから 11 月中旬に日本向けにまとまった数量が出たが、集中豪雨による道路等に被害が出ており、今後の出材は不透明。

10 月の国内合板生産量は 28.1 万 m<sup>3</sup>、うち針葉樹合板は 27.4 万 m<sup>3</sup>、出荷量は 27.5 万 m<sup>3</sup> で在庫量は 8.9 万 m<sup>3</sup>、うち構造用合板の在庫は 7.0 万 m<sup>3</sup> とかなりの低水準。針葉樹合板は各メーカーともフル生産だが、労働時間の短縮と作業員不足で生産量は伸びない。需要旺盛のため先月以上に在庫不足で納期に

時間を要している。価格は過去最高値を更新。輸入合板は殆どの品目でタイト感を出ているが、春先よりは落ち着いている。価格が常に上がっており、落ち着く気配はない。現地でのコスト上昇（接着剤・運賃・原木・人手不足）で値上がり傾向は続くだろう。10月の合板輸入量は24.3万m<sup>3</sup>でマレーシア産は前月比増、インドネシア産は微増、中国産は前月比減。インドネシアでは依然原木供給が不足しており、北米、日本からの堅調な引き合いで合板価格は引き続き上昇。マレーシアでは新型コロナ禍による従業員不足で工場生産量は頭打ち。

## 6. 構造用集成材

10月中旬からコンテナ船の滞留が深刻化し、ラミナ入港は予定量を大きく下回っている。来年第1・四半期契約は€560～€600が予想され、第4・四半期と同様、依然として高値である。現在消費のラミナは第3・四半期契約分の€600を超えるもので、ラミナ原価は工場着100,000円/m<sup>3</sup>になっている。輸入集成材もコンテナ不足の影響が出始め、10月中旬以降の入港量は予定を下回っている。国内流通価格は130,000円/m<sup>3</sup>以上、また来年第1・四半期契約も130,000円/m<sup>3</sup>程度になる見通し。特に3m105角と通し柱は年末以降も引き合いは強いだろう。さらにRWラミナの不足で今後梁・桁の引き合いも強いと予想される。

## 7. 木材チップ(東海)

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引き合いは強いが、発生、入荷ともに低調、車両確保が厳しい。解体材は例年並みだが、一部で出し渋り、値引きの状況。製紙用では国産針葉樹チップの増集荷基調は継続しているが、集荷状況は厳しい。燃料用は製紙系の大型定期修理があるが、使用量は増加しており、増集荷基調は継続。製紙用、燃料用ともに在庫は少なく、年末年始に向けて各社在庫の積み増しに動いている。

## 8. 市売問屋

材木店の仕事量が少なく細かいので、量的に動かない。構造材は高値維持で材木店の仕入意欲が見られない。造作材も乾燥材、少量の注文材で量的に動かない。原油高、コンテナ不足、人手不足で何もかも値上げであるが、この木材価格水準に落ち着くのか、まだ一段の値上げになるのか、見極める状況にある。

## 9. 小売

秋需の時期だが、盛り上がりには欠ける印象である。木材は品目によっては落ち着いてきたが、価格は下がっていない。逆に建材、什器では品薄、入荷遅れ、値上がりが続いており、しばらくはこの状況が続くと見られる。11月に入って国産材構造材は一服感が強い。価格は高値保合。外材も品薄の材料

はほぼ無くなった。米ツガ角類、WW 集成柱には品薄感が残り、品不足の再燃も予想される。造作材では内地挽き米ツガ製品の品薄が継続、アカマツ野縁材はこれまでの勢いが見られない。国産材の羽柄材も値上がりは一服している。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年12月21日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	→	↗
北洋材	丸太	→	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m)2等	↘
			スギ中丸太(3.65m)2等	→
			ヒノキ柱材(3m)2等	→
			ヒノキ中丸太(4m)2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD)10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
		ヒノキ柱角(KD)10.5×10.5×3m 特等	→	
		ヒノキ柱角(KD)12.0×12.0×3m 特等	→	
		ヒノキ土台角12.0×12.0×4m 特等	→	
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↘
			米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	→
		米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→	
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ(KD)30×40上級	↘
			アカマツ(KD)16×40上級	↘
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	→
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗